

よししまじんじゃほんでん
葭島神社本殿

| | |
|-------|------------------|
| 種 別 | 県指定文化財 建造物 |
| 指定年月日 | 昭和 44 年 2 月 18 日 |
| 所 在 地 | 大川町（葭島神社） |

葭島神社は、元々「^{ごこくじ}五穀寺」と称し、能登の^{せきどうさんてんびょうじ}石動山天平寺の僧・^{たかくらぼうぎょうぞういんくうせい}高倉坊行蔵院空清が、前田利常に小松に招かれ、創建した山伏寺であった。

初めは梯川そばに社堂を造営したが、洪水で大破したため、正保元年（1644 年）に現在の位置に社堂が造営された。その際、小松城内の^{よししま}葭島⁽¹⁾にあった城の守護神・稲荷大明神を合祀し、「小松稲荷五穀寺」と称した。明治 14 年（1881）に、稲荷大明神の旧鎮座地名に因んで「葭島神社」と改称された。その後、明治 20 年に城内にあった愛宕社を、同 41 年に利常を祀る能美神社を合祀している。

本殿は江戸時代後半の建造と推定される。屋根が曲線的に前面に伸びて向拝となる^{ながれづくり}流造という建築様式で、正面の柱間が3間の^{さんけんしゃながれづくり}三間社流造の本殿である。覆屋に覆われているため、建てられた当時の姿をよく残している。また欄間や各所の彫刻も精巧であり、建築とよく調和したものである。

- (1) 葭島：小松城内の島の名。小松城は堀の中に8つの島が配置される構造となっており、葭島はその一つで、花園のほか茶室をもつ御殿が存在した。建物に使用された飾り金具などは、百工比照として尊経閣文庫に保存されている。

